

「花は咲く」

山形県 光傳寺住職 庄司憲昭

天変地異と世界的な困難に見舞われた今年、私は、身の周りを調える事に日々を費やしました。

内外の片付け・不要な物をまとめて、リサイクルや処分場に運びました。自坊で家族と過ごす時間が増えたことで、これまでそうとも思わなかった一つ一つを、愛おしく感じるようになりました。

家族と一緒に外に出て落ち葉拾いに精を出し、汗をかく中に、身内からの助けがこのお寺を支え、私を支えていたことを、つくづく気付かされました。

連日、良いニュースが聞こえてこない日常の中、時間を決めてテレビニュースの視聴を控えるようにしました。そして私は、運動不足解消のため、雪溶けを待たずに長靴を履き、一日の距離を決めてひたすら歩きました。

春の到来、山の樹々達が一斉に若葉を茂らせ、花咲く時を迎えました。小さいながらも白やピンクの山野草、山花の何と美しいことでしょう。

私はハッとしました。去年もその前も、同じ時、同じ場所に咲いていたはずです。私は、気付かずにいたのです。歩くことにどっぷりと集中すると、周りが見えて来るようになりました。

それから私は、山にも自生していた花数種類と、咲いてくれたらと願う花、数種を境内に植樹しました。

春クリンソウ・初夏クチナシ・夏アジサイ。そして秋、ヒガンバナ・キンモクセイが次々と咲き、凛とした立ち姿と香りで、境内の荘厳をしてくれました。

上手に冬を越すことが出来れば、来春、ジンチョウゲの花が咲いてくれるはずです。その時を信じて、肥料を与えました。

花も、そして人も、それぞれが本来の役割を育んでいく先に、やがて咲く日が訪れるのでしょうか。

機縁熟して咲く花に、足を止め、愛でて味わうひとときに、穏やかな安心が現れる。そう感じる今日この頃です。